

ベトナム語指示詞について
— 日本語・韓国語の指示詞との対照を基に —

NGUYEN THI HA THUY

1. はじめに

ベトナム語の指示詞は三系列を持っていると言われるが、研究は少なく、議論も諸説が混在している。これまで、ベトナム語指示詞を主なテーマとした研究は Nguyen (2002) と安達 (2008, 2009) がある。両者は異なった観点から指示詞を考察したにも関わらず、未だに解決できていない共通の問題が存在していると言える。本論文は、対照言語学的方法を採り、ベトナム語と同様に近称・中称・遠称の三系列の指示詞を持つ日本語・韓国語と対照させながらベトナム語指示詞の性質を記述する。

2. 先行研究及び本論文の研究方向

2.1 先行研究

ベトナム語指示詞についての先行研究は、Thompson (1965)、Nguyen Huu Quynh (2001)、富田 (2000) のような簡単に指示詞の使い分けに触れるだけにとどまるものが多く、指示詞を中心的なテーマとして初めて取り上げた研究は、Nguyen (2002) である。Nguyen (2002) は、指示詞は形態の面では密接な関係があるにも関わらず、これまで指示詞の形態論的研究が全く見られないと指摘し、指示詞を形態的に分析し、それに基づいてベトナム語の指示詞についての解釈と機能を主張している。

Nguyen (2002) では、各指示詞が自由形態素になれるかどうかを指定するために[±NOM](名詞性)を導入し、形態的類似から指示詞を /-Aw/, /-Ay/, /-ɔ/ の三種類に分けている。さらに、「近・遠」の対立に基づいた Thompson (1965) の分類方法と異なり、空間指示詞¹を **D1**(近)、**D2**(中)、**D3**(遠)の三系列に分類している(不定称**D0**を除く)。そして、/-Ay/は **D1**(*đây, này*)と **D2**(*đấy, (n)ấy*)に、/-ɔ/は **D2**(*đó*)と **D3**(*nọ*)に、*kia* は **D3** に対応するとしている。このように、**D2** には /-Ay/(*đấy, (n)ấy*)と /-ɔ/(*đó*)の二種類も存在しているというのは **D2** が意味的にも形態的にも **D1** と **D3** の中間にあることを表していると主張している。Nguyen (2002) の説明を表にすると以下ようになる。

¹ Nguyen (2002) では、空間指示詞についての定義を与えていないが Nguyen (2002) で扱われる用例からすれば、ほぼ眼前指示に対応すると言える。ただし、空間指示詞は「私の心の中」のような概念的な場所を指すこともあるとされている。

系列	類似形態素	名詞性	指示詞
D1(近)	/ -Ay/	+NOM	<i>đây</i>
		- NOM	<i>này</i>
		±NOM	×
D2(中)	/ -Ay/, / -o/	+NOM	<i>đây</i>
		- NOM	<i>(n)ây</i>
		±NOM	<i>đó</i>
D3(遠)	/ -o/	+NOM	×
		- NOM	<i>nh</i>
		±NOM	<i>kia</i>
D0(不定)	/ -Aw/	+NOM	<i>đâu</i>
		- NOM	<i>nào</i>
		±NOM	×

(表 1) Nguyen (2002) によるベトナム語の空間指示詞の特徴

また、Thompson (1965) によると、*đây* は話し手に近い、あるいは新たに導入された (close to speaker or newly introduced) ものを、*đây* は遠くにある、または既に同定された (remote or already identified) ものを、*kia* は *đây* より遠い (more remote than *đây*) ものを指すとされている。だが、Nguyen (2002) ではそれは話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いている場合にしか言えないと指摘している。話し手と聞き手が向かい合っている場合は、話し手に近いものを *đây*、聞き手に近いものを *đó*、双方から遠いかつ聞き手にとって可視的でないものを *kia* で指示するとされている。さらに、発話場面において、発話者・対話者に共通している空間を「内空間」、それ以外の空間を「外空間」とし、*đây* は常に内空間に、*kia* は外空間にある。その一方、*đây/đó* は内空間に入ったり外空間に入ったりするため、D1/D2/D3 の三分法よりは D1, D2/D3 の二分法のほうが適切であろうと主張している。Nguyen (2002) による内空間・外空間と指示詞の選択については、以下のものである。ちなみに、Nguyen (2002) では、ベトナム語指示詞では「D2 の *đây/đó/ây* は照応用法に用いられる可能性が高いようである (p.143)」と述べている。特に、繫詞文 (コピュラ文) ~ *là X* という形においては、照応的に用いられるのは *đây* と *đây/đó/ây* であり、*kia* には見られないとも述べている。

	私 // あなた (平行)	<i>đây</i>	<i>đây, đó/kia</i>
我々		内空間	外空間
	私<->あなた (対面)	<i>đây/đây, đó</i>	<i>kia</i>

一方、安達 (2008)²では、金水・岡崎・曹 (2002) による日本語の指示詞の分類方法を応用し、日本語と対照しながらベトナム語の指示詞を「直示用法」、「照応用法」と「記憶指示用法」に分けて分類している。その結果、次のように主張している。

² 安達 (2008) は、「金水敏・岡崎女子・曹美庚 (2002) によれば、直示用法とは「外界において知覚できるもの、典型的には目に見えているものを直接指し示す用法 (p.218)」であり、「照応用法とは「言語的テキストによって導入された先行詞と同一指示関係を持つ用法」(p.220) のことである」、「記憶指示用法とは「話し手が過去の経験から直接的な知識として持っている対象を指し示す用法」のことである (p.221)」と先行研究を引用している。

- (i) ・ 近称の *đây* は、話し手の身近にあるものを直示する。また、前後の文脈に言語的に導入された先行詞を指示することができ、不特定の対象を承けることもできる。
- ・ 遠称の *kia* は、話し手から遠くにある可視的なものを直示する。*đây* と対になって、「もう一方」という意味で使われることがある。*kia* は照応用法を持たないが、記憶（話し手の直接経験）の中にある対象を指示することがある。
- ・ 中称の *đó* は、話し手から離れた所にあるものを直示し、発話の場において可視的でないものも指示できる。その際、必ずしも聞き手の存在が基準となっておらず、中距離を指示するわけでもない。対象は話し手にとって疎遠なものであるという直感があり、“疑問詞+*đó*”という形で曖昧なものも指示できる。多くの場合は、対になるものを想定する必要はないが、人称代名詞のように用いられる場合は、*đây* が話し手を、*đó* が聞き手を表すことがある。また、典型的な照応用法と記憶指示用法を併せて持っている。

(安達 2008:207)

さらに、「話し手から離れた所に位置する可視的なものを直示する場合の *đó* と *kia* の使い分けの原理について詳しく説明することができなかった。また、聞き手と *đó* との関係についても未解明の部分が残っている (p.214)」と述べ、安達 (2009) ではそれを解決しようとした。安達 (2009) は次のように述べている。

- (ii) ・ 直示用法において、話し手が対象を（物理的・心理的に）近いと感じているか遠いと感じているかが重要であり、聞き手の位置はその使い分けに大きく影響しないこと、また、
- ・ 遠称の *kia* にも記憶指示用法があり、*đó* は話し手が疎遠だと感じている対象を指示するのに対し、*kia* は話し手がよく見知っている対象を指示することを主張する。

(安達 2009:1)

	直示			照応	記憶指示
	話し手	聞き手	その他		
<i>đây</i>	近	近/遠	親近感	近	×
<i>đó</i>	遠	近/遠	疎遠感 曖昧指示	遠	遠
<i>kia</i>	遠	近/遠	直接的認識 「もう一方」	×	近

(表2) 安達 (2009) によるベトナム語指示詞の分類

ちなみに、安達 (2008, 2009) では、ベトナム語指示詞における直示用法については、聞き手と対象との距離は指示詞の選択に影響せず、話し手の指示対象に関する知識の質が用法に関係すると述べている。*đó* と *kia* に関しては、*đó* は疑問詞の後に曖昧指示として用いられ、*kia* は「もう一方」の意味を持つとされている。しかし、直示用法の *đó* と *kia* の使い分けについては「話し手から離れた所にある可視的なものを直示する場合、*đó* は *kia* と置き換えられることが多い (安達 2009:6-7)」としか述べていない。

2.2 先行研究の問題点と本論文の研究方向

先行研究によるベトナム語指示詞の用法をまとめると次のようになる。

- ・ベトナム語の指示詞は *đây-đấy/đó-kia* の三系列を持ち、眼前指示では *đây* は近くにあるものを、*kia* は遠くにあるものを指すと言える。*đấy/đó* は聞き手に近いものを指す。ただし、聞き手に近いものでも、話し手からも手が届く範囲にある場合なら、*đây* 系で指し示すこともある。*đấy/đó* は話し手と聞き手が向かい合っているとき、その中間地点にある対象を指示することもできる。話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いているとき、指示対象が三つ存在している場合ならその中間にあるものを *đấy/đó* で指す。
- ・非眼前指示の *đây-đấy/đó-kia* に関しては、*đây* 系と *đấy/đó* 系は照応的に用いられるが、*kia* 系にはその用法がないと言える。また、安達 (2008, 2009) は *đấy/đó* 系と *kia* 系は記憶指示用法を持つと主張している。

このように、先行研究は非常に優れたものではあるが、これらの研究にはまだ解決できていないいくつかの問題が残っている。Nguyen (2002) では、指示詞を形態的特徴に基づいて分類し、D1/D2/D3 より D1, D2/D3 の二分法のほうが適切であると主張し、D2(中)の *đấy/đó* を特別扱いしている。しかし、*đấy/đó* の意味・機能については明らかにされていない。また、Nguyen (2002) では非眼前指示に対する考察も極めて少ない。それを踏まえて、安達 (2008, 2009) は眼前指示における直示用法、非眼前指示における記憶指示用法、そして照応用法に分けてベトナム語の指示詞を解釈している。だが、安達 (2008, 2009) も直示用法の *đấy/đó* 系と *kia* 系との違いを明示できていない。

さらに、記憶指示用法における *đó* と *kia* の使い分けについては、安達 (2009) では「記憶指示用法の *kia* は話し手が直接的によく見知っている対象を、*đó* は話し手が内容をよく把握しておらず、自分には疎遠だと感じている対象を示す (p.7)」と主張している。この主張の根拠となるのは次の例である。安達 (2009) の例を(1)として次に挙げよう。

- (1) A: Nghe anh Vũ nói **em** làm trò ảo thuật hay lắm phải không?
 聞く ~さん [人名] 言う 私 する [類別詞] マジック 上手 とても ~でしょう
 Bây giờ **em** biểu diễn vài trò cho **chị** xem với!
 今 私 演じる いくつか [類別詞] ~のために あなた 見る [文末詞]
- B: Trò ảo thuật {**áy**/**kia*} à?
 [類別詞] マジック その/あの [文末詞]
- A: ブーさんから私はとてもマジックが上手だと聞いているでしょう?
 今からいくつかお見せしましょう!
- B: **あの**マジックを?

安達 (2009) は(1)について、Bは「あのマジック」についてブーさんから聞いて知っているだけで、まだ現物を見たことがないので、ここでは、自分にとって疎遠なものだというイメージを含む **đó** を用いた方が自然であると解説している。しかし、(1)の **em** は一人称の「私」ではなく、二人称の「あなた」に当たり、その一方 **chị** は二人称の「あなた」ではなく、一人称の「私」に当たる。したがって、(1)を以下の(1')のように解釈しなければならない。

- (1') A: Nghe anh Vũ nói **em** làm trò ảo thuật hay lắm phải không?
 聞く ~さん [人名] 言う あなた する [類別詞] マジック 上手 とても ~でしょう
 Bây giờ **em** biểu diễn vài trò cho **chị** xem với!
 今 あなた 演じる いくつか [類別詞] ~のために 私 見る [文末詞]
- B: Trò ảo thuật {**áy**/**kia*} à?
 [類別詞] マジック その/あの [文末詞]
- A: ブーさんからあなたはとてもマジックが上手だと聞いているけど、そうでしょう?
 今から私のためにいくつか見せてください!
- B: **あの**マジックを?

つまり、Bは「あのマジック」を良く知っているため、自分にとって疎遠なものであると感じるはずがない。よって、ここで用いられる **đó** (**áy**) は疎遠だと感じられる対象を指示するとは決して言えない。ちなみに、安達 (2009) はこの後も、**đó** が *kia* より「遠」である対象を指すという主張を検証するためにいくつか他の例も挙げているが、主張の根拠が間違っていることが分かった。したがって、表2の記憶指示用法における **đó** が「遠」、*kia* が「近」という特徴付けは妥当ではないと思われる。

また、先行研究には言及されていない以下のような例がある。以下の(2)と(3)は眼前指示用法であり、中称の **đây/đó** と遠称の *kia* のどちらも適切であるが、*kia* を用いる時のニュアンスは **đây/đó** とは異なる。**đây/đó** を用いると、ただ聞き手に属するものを指すが、*kia* を用いると、話し手が指示対象を非難しているというニュアンスが出てくる。こういった場合の **đây/đó** と *kia* の使い分けに対する説明が必要であろう。

(2) **Xuân Lan:** Chúng ta phải hi sinh bản thân chúng ta đi. Chúng ta phải từ bỏ dục tính...

Chung: Tôi không tin Xuân Lan...Xuân Lan không dám thành thực với mình.
 私 [否定] 信じる [人名] [人名] [否定] 思い切る 誠実 [介詞] 自信
Cái áo xê tà { **này* / *ây(đó)* / *kia* }, một chút son phấn trên khoe miệng
 [類別詞] すそが別れたブラウス この / その /あの 少し 化粧 上 口元
 { **này* / *ây(đó)* / *kia* }, bộ trang phục “môden” { **này* / *ây(đó)* / *kia* }...
 この / その /あの [類別詞] 服装 モダン この / その /あの
Tất cả là tổ cáo, là bằng chứng của dục vọng.
 すべて [繫詞] 告訴 [繫詞] 証拠 [介詞] 欲望

スアン・ランさん: 私たちは自分自身を犠牲にすべきです。欲情を捨てるべきです。

チュンさん (スアン・ランさん指着言う): 僕はスアン・ランを信じません。あなたは自分自身に素直になっていないのです。その裾が開いたブラウス、その口元に見えるほんの少しの化粧、そのモダンな服装... すべてが欲情を訴える証拠です。 (p.184)

(3) **Xuân Lan:** Miệng lưỡi anh độc ác lắm anh Báo ạ. Nhưng tôi biết rõ anh, đằng sau nụ cười độc ác { **này* / *ây(đó)* / *kia* } là một trái tim trung thực.
 口 舌 お兄さん 毒悪 非常に ~さん [人名] [語気詞] しかし 私 知る 詳しい お兄さん
 裏 微笑 毒悪 この / その / あの [繫詞] 心 忠実

スアン・ランさん (バオさんに言う): バオさん、あなたは毒舌ですが、その意地悪な微笑の裏に誠実な心が隠れていることがわかりますよ。 (p.169)

本稿では、まず以下の点を確認しておきたい。

- ・ 中称の指示詞には *đó* と *đấy* があるが、北部方言では *đó* より *đấy* のほうがよく見られる。本論文の研究対象は、首都であるハノイが中心となる北部方言とするため、ベトナム語指示詞を *đây* 系、*đấy(đó)* 系、*kia* 系の三系列とする。
- ・ 本稿で扱われるベトナム語指示詞については、不定称（疑問）を除いてまとめると以下のようなものである。

品詞	統語論的機能	<i>đây</i> 系		<i>đấy(đó)</i> 系		<i>kia</i> 系	
代名詞	名詞相当	コレ	<i>đây/cái này</i>	ソレ	<i>đấy(đó)/cái đấy(đó)</i>	アレ	<i>kia/cái kia</i>
連体詞	連体修飾	コノ	<i>này</i>	ソノ	<i>đấy, ấy(đó)</i>	アノ	<i>kia</i>
副詞	副詞相当	コンナニ コウ	<i>thế này</i>	ソンナニ ソウ	<i>thế ấy</i>	アンナニ アア	<i>thế kia</i>
代名詞	場所格名詞相当	ココ	<i>đây/chỗ này</i>	ソコ	<i>đấy(đó)/chỗ đấy, ấy(đó)</i>	アソコ	<i>kia/chỗ kia</i>

(表 3) 本稿で扱われるベトナム語指示詞の分類

これを踏まえて、先行研究と異なるアプローチから *đây-đấy(đó)-kia* の用法とその使い分けを明らかにする。ただし、ベトナム語の指示詞を考察するために対照言語的に見る必要があると考え、同じ三系列の指示詞を持つ日本語・韓国語と対照させることにする。*đây-đấy(đó)-kia* はそれぞれコ・ソ・ア、*i-ku-ce* に対

応していると言われており、日本語・韓国語の指示詞に関する研究が多く、これらの言語における指示詞の一般化をベトナム語にも応用できるかもしれない。本稿では、越日・越韓の指示詞の共通点・相違点を示した上、日本語・韓国語における指示詞の特徴付けを *đây-đáy(đó)-kia* にも当てはめられるかどうかを検討する。それに基づき、先行研究では説明できなかった問題も含めて、ベトナム語の指示詞への解釈を試みる。

3. ベトナム語指示詞について—日本語・韓国語との対照を基に—

ベトナム語は日本語、韓国語と同様に近称・中称・遠称の三系列の指示詞を持っているが、*đây-đáy(đó)-kia* はコ・ソ・ア、이・구・저(i-ku-ce)に完全に対応しているとは言えない。第2節で述べたように、安達 (2008, 2009) は金水敏他 (2002) におけるコ・ソ・アに対する語用論的な一般化を *đây-đáy(đó)-kia* に応用することで指示詞の機能とその使い分けを試みた。だが、日本語指示詞の用法をその一般化によってどのように説明されているかについては明示されず、両言語における指示詞の共通点・相違点も十分に考察されていないため、ベトナム語指示詞の用法が明らかにされているとは言えない。本稿では、まずベトナム語・日本語またはベトナム語・韓国語の指示詞における共通点・相違点を基本的に眼前指示と非眼前指示に分けて示すことにする。そして、Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みによって一般化された日本語または韓国語の指示詞を確認しながら、それらの共通点・相違点に反映されるベトナム語指示詞の本質を探る。

3.1 *đây-đáy(đó)-kia* と日本語のコ・ソ・ア

3.1.1 両言語の指示詞における共通点

眼前指示では、ベトナム語も日本語と同じく、基本的に認知主体である話し手から近くにあるものを指す時に *đây* 系 (コ系)、遠くにあるものを指す時に *kia* 系 (ア系) の指示詞が使われる。聞き手に近い、あるいは聞き手に属しているものを指す場合は *đáy(đó)* 系 (ソ系) が用いられる。なお、(4)と(5)では指示対象が話し手の手の中にあるので *này* (*đây* 系) が、(6)と(7)では話し手から遠くに離れたものを指示するので *kia* が用いられる。一方、(8)と(9)では聞き手の手の中にあるものを指すので *áy* (*đáy(đó)* 系) が使用される。

・眼前指示の *đây* とコ

(4) (ルオンさんが蓮の花を持って入ってきた。)

Sư Huệ: ...Ồ... Hoa sen đẹp quá!
[間投詞] 花 蓮 美しい ~すぎる

Ông Lương: Bạch thầy! Con hái bông sen {*này* / *ây(đó)* / **kia*} ngoài đầm...
[呼び掛け] 先生 子供 摘む [類別詞] 蓮 この / その / あの 外 沼地

フエ僧侶: おや! きれいな蓮の花じゃな...

ルオンさん: 和尚さん! 外の沼地でこの蓮の花を摘んできました。 (p.52)

- (5) **Xuân Lan** (*cắm tiền trên tay*): ... Tôi sẽ dùng số tiền {*này* / *ây(đó)* / **kia*} vào việc khác, vào việc từ thiện chẳng hạn.
私 [未来] 使う 数金 この / その / あの [助動詞] こと 他 [助動詞] こと 慈善 例えば

スアン・ランさん (お金を持ちながら): このお金は別のことに使いましょう! たとえば慈善目的とか... (p.166)

・眼前指示の *kia* とア

- (6) (泥棒が向こうの壁を指してフエ僧侶に言う。)

Tên trộm: Im ngay! ...Đi lại đằng {**này* / **ây(đó)* / *kia*}... Đi sát tường...
黙る すぐ 行く 来る 方 この / その / あの 行く 添う 壁

Sư Huệ: Được rồi...Không ai làm hại người đâu. Ở đây không có ai cả.
良い [完了] ない 誰 する 害 汝 [語気詞] [介詞] ここ ない ある 誰 [強意]

泥棒: 黙れ! あっち行け! 壁に沿って歩け!

フエ僧侶: よしよし... 誰もあなたを害さぬよ。ここには誰もおらぬ。 (p.13)

- (7) **Tên trộm:** ...Tao sẽ lấy thêm một pho tượng nữa...
俺 [未来] 取る 加える 1 [類別詞] 像 さらに

Sư Huệ: Hãy lấy pho tượng Thích Ca {**này* / **ây(đó)* / *kia*} kia...
[命令] 取る [類別詞] 像 釈迦 この / その / あの [文末詞]

Pho tượng nhỏ ấy...
[類別詞] 像 小さい その

泥棒: 像をもう一つ持っていくぞ!

フエ僧侶 (手で指しながら): あの釈迦の像を持っていきなさい。あの小さいの。 (p.14)

・眼前指示の *đây(đó)* とソ

- (8) (タオさんがモーさんの体を起こして、モーさんの服のポケットの中にある箱を取り出した。箱の中にネックレスがある。)

Mơ: Em có thấy sợi dây bạc có cái vuốt hổ {**này* / *ây(đó)* / **kia*} không?
妹 [強意] 見える [類別詞] 紐 銀 ある [類別詞] 爪 虎 この / その / あの [疑問]

Thảo: Cái vuốt hổ đẹp quá chị ạ!
[類別詞] 爪 虎 美しい ~すぎる お姉さん [語気詞]

モーさん: その銀でできた虎爪のネックレスが見える?

タオさん: きれいな虎爪ですね、お姉さん! (p.195)

- (9) **Tên trộm** (*cắm pho tượng*): ... Pho tượng này mà quý à?
[類別詞] 像 この [連詞] 貴重 [疑問]

Sư Huệ: Người mà bán pho tượng {**này* / *ây(đó)* / **kia*} cho hàng đồ cổ
汝 [強意] 売る [類別詞] 像 この / その / あの [介詞] 店 骨董品

có thể được 5 triệu đồng mà không phải tội...
[可能] できる 5 兆 ドン [連詞] [否定] 処罰

泥棒 (仏像を持って): この仏像は高価なものなのか?

フエ僧侶: その仏像を骨董品屋さんに売れば仏様に罰せられることなく 5 百万ドンもらえるのじゃ。(p.14-5)

非眼前指示に関しては、金水・田窪 (1992) では、「解説のコ」とは「あるまとまった内容について説明・解説するために談話に導入した事物を解説者が指し示す場合に典型的に用いられるコである (p.139)」、さらにこの「解説のコ」は一種の現場指示とみなせるという。以下の(10)で見られるように、ベトナム語の *đây* にもそういった用法を持っていると言える。また、(11)と(12)のような後方の文を指し示す時も、日本語と同様に *đây* (コ系) の指示詞しか用いられない。さらに、(13)~(15)のような連動読み³の場合も、中称 (ソ系、*đây(đó)*系) しか許されないという点では共通している。遠称のア系と *kia* 系については、共有知識にある対象を指し示す時に使われるという点では共通していると考えられる。ちなみに、(16)と(17)は指示対象が *người phụ nữ vô danh* (事件捜査中に出てくる「謎の女性」) と *bé trai* (ベン市場の辺りに生まれたばかりの「男児」) であり、どちらも過去の話題に出ていた人物である。

・「解説の *đây* とコ」、後方照応の *đây* とコ

- (10) **Sư Huệ:** Ta là ai? Câu hỏi {*này / ấy(đó) / *kia*} không trừ ai cả. Nam mô A di đà Phật!
私 [繫詞] 誰 質問 この / その / あの [否定] 除く 誰 すべて 南 無 阿 弥 陀 仏

フエ僧侶: 「私は誰?」この質問をしたことのない人間はおらんじやろう。南無阿弥陀仏! (p.31)

- (11) **Chung:** Chuyện là {*thế này / *thế / *thế kia*}... Tôi thất tình... Tôi cô đơn...
話 [繫詞] こう / そう / ああ 私 失恋 私 孤独

Xuân Lan: ...tôi không quan tâm đến chuyện ấy. Anh quen cô Mơ thế nào?
私 [否定] 関心 [助詞] 話 その お兄さん 知りあう ~さん [人名] どう

チュンさん: こういうことなんです。僕は失恋して、一人ぼっちで...

スアン・ランさん: そんなことはどうでもいい! あなたはどうかやってモーさんと知り合ったのですか? (p.179-180)

- (12) **Bảo:** Hon nữa, {*đây / *đây(đó) / *kia*} mới là điều quan trọng nhất, tôi không quen tiêu tiền lẻ.
しかも これ / それ / あれ こそ [繫詞] こと 大事 一番 私 [否定] 慣れる 使う 小銭

バオさん: しかも、これこそが一番大切です。小銭を使い慣れていないのです。(p.169)

・連動読みの *đây(đó)* とソ

- (13) **Bảo:** Ông ta là một bác sĩ chuyên môn cừ, bằng chứng là bệnh nhân nào được ông ta khám bệnh đến lần thứ ba là bệnh nhân {**này / ấy(đó) / *kia*} chết...
彼 [繫詞] 1 医者 専門 上手 証拠 [繫詞] 患者 どの [受身] 彼 診療する まで 回 目 3 [繫詞] 患者 この / その / あの 死ぬ

³ 上山 (2000) では、例えば「どの政党の黨員も そこ が一番だと思って黨員になっているに違いない。」という文は「A 政党の黨員は A 政党が一番だと思って黨員になっているに違いないし、B 政党の黨員は B 政党が一番だと思って黨員になっているに違いないし、C 政党の...」という意味があり、「そこ」に相当する部分は、それぞれ、先行詞の部分の解釈と連動して値が変わっていく」と述べ、このような読みを連動読みとしている。

バオさん (スアン・ランさんに言う): 彼は腕がいい先生ですな。どの患者さんも彼に病
 気を見てもらうと**その**患者さんは3回目には必ず死ぬので... (p.169)

- (14) **Mơ:** ...chính vì thế mà em cố gắng để sống ngày nào được thêm thì hay ngày
 だからこそ [連詞] 妹 頑張る ~ために 生きる 日 **どの** 得る 加える [連詞] 良い 日
 {**này / ấy(đó) / *kia*}.
 この / その / あの

モーさん (スアン・ランさんに言う): だからこそ、一日でも生き残れるように頑張りま
 す! (p.199)

- (15) **Đại tá:** Cái này ông nói rất thật lòng, nếu như con muốn thì con đi đâu
 これ おじいさん 言う とても 本心 [仮定] 子供 欲しい [連詞] 子供 行く どこ
 ông sẽ đi theo {**đây / đây(đó) / *kia*}...
 おじいさん [未来] ついて行く ここ / そこ / あそこ

大佐 (メルザさんに言う): これは本心から言うのだが、お前も良いと言ってくれば、
 お前がどこに行ってもわしが**そこ**について行く... (p.285)

・共有知識の *kia* とア

- (16) (グエン・タイ・ホックという歴史人物についての事件捜査中に謎の女性の名前が出て
 きて、少将は部下の中尉にその女性の真相を調べるように命令する。)

Thiếu tướng: Anh chỉ còn một cách thôi, anh hiểu không? Anh phải
 お兄さん だけ 残る 1 方 [限定] お兄さん 分かる [疑問] お兄さん ~なければならぬ
 dựng lại toàn bộ câu chuyện này, câu chuyện về Nguyễn Thái Học và
 再現する 全部 ストーリー この ストーリー について [人名] と
 người phụ nữ vô danh {**này / ?ấy / kia*}.
 [類別詞] 女性 無名 この / その / あの

少将: 分かったか? 君には道が一つしかない。このストーリー、つまりグエン・タイ・
 ホックと**あの**謎の女性のすべてを再現しなければならないのだ。(p.94)

- (17) (ベン市場の辺りに子供が生まれた家があるかどうか尋ねに行ったキエムさんとしば
 らくベン市場の辺りの様子について話して、フエ僧侶がキエムさんに聞く。)

Sư Huệ: ...thế bố có hỏi về cái nhà mới sinh đứa bé trai
 [接続] 老いた下男 [疑問] 聞く 関する [類別詞] 家 ばかり 生む [類別詞] 幼児 男
 {**này / ?ấy(đó) / kia*} không?
 この / その / あの [疑問]

フエ僧侶: そういえば、**あの**男児が生まれたばかりの家について聞いたのか? (p.24)

3.1.2 両言語の指示詞における相違点

両言語の指示詞の相違点については、眼前指示における指示対象との距離へ
 の認知 (対象が指す地点から近いか遠いか) という言語外的要因から来る違い、
 また、指示現場にいない人を指す時、日本語では指示詞が使われるが、ベトナ
 ム語では第三人称代名詞がよく用いられるという言語表現の選択による違いな
 どもある。それはともかくとして、両言語の指示詞の相違点は、主に以下の二
 点が見られる。まず一つ目は、眼前指示では、(18)~(20)のような指示対象が話
 し手からも聞き手からも遠いところにある場合、日本語ではア系が使われるの

に対して、ベトナム語では中称の *đây(đó)* 系のほうが適切であり、遠称の *kia* 系が用いられにくい。

・ *đây(đó)* と眼前指示のア

(18) (空を見ながら)

Ông Lương: Ở chỗ góc trời phía nam có một ngôi sao sáng rực... Bạch thầy!
[介詞] 所 果て 空 方 南 ある 1 [類別詞] 星 明るく きらめく [呼び掛け] 先生
 { **đây* / *đây(đó)* / **kia* } là sao gì?
これ / それ / あれ [繫詞] 星 何

ルオンさん (フエ僧侶に聞く): 南の空の果てに明るくきらめいている星があります。和尚さん! あれは何という星ですか? (p.53)

(19) (遠くにある魔法瓶を指して)

Bảo: ...chị có nhìn thấy cái phích hai lít rưỡi *kia* không?
お姉さん [強意] 見える [類別詞] 魔法瓶 2 リットル 半 あの [疑問]
 Xuân Lan: Anh bảo sao?
お兄さん 言う どのよう

Bảo: Chị hãy hình dung ở { **đây* / *đây(đó)* / **kia* } chứa đầy máu.
お姉さん [命令] 想像する [介詞] ここ / そこ / あそこ 詰める いっぱい 血

バオさん: あそこにある容量が2リットル半の魔法瓶が見えますか?

スアン・ランさん: どういうことですか?

バオさん: あの魔法瓶/そこに血がいっぱい入っていることを想像してください!
 (p.193)

(20) (遠くにあるテーブルを指しながら)

Sư Huệ: Bỏ dao xuống. Người đến chỗ bàn *kia*, ở { **đây* / *đây(đó)* / **kia* } có
捨てる ナイフ 下りる 汝 来る ところ テーブル あの [介詞] ここ / そこ / あそこ ある
 cái tráp đen.
[類別詞] 小箱 黒い

フエ僧侶 (フエ僧侶が泥棒に言う): ナイフを捨てろ! あのテーブルのところに行ったら、あそこに黒い小箱がある。 (p.14)

この *đây(đó)* については、ベトナム語指示詞における先行研究では「既に言及されたもの」を指し示すという説明が与えられる。指示対象が遠くに離れているものであっても、一度言語的文脈に登場したものなら *đây(đó)* 系で指す。ただし、指し直しがあれば、遠称の *kia* を使用しなければならない。例えば(18)では、ルオンさんが話を続けて別のところにある星を指して、さらにフエ僧侶に聞いたら、次のようになる。

(18*) Ông Lương: Thế còn sao { **đây* / **đây(đó)* / *kia* } là sao gì?
[接続] 星 ここ / そこ / あそこ [繫詞] 星 何

ルオンさん: で、あそこの星は?

もう一つは、非眼前指示における相違点である。話し手も聞き手も知っているいわゆる共有知識にある対象を指す時、日本語では遠称のア系が用いられる。それに対して、ベトナム語では(16)と(17)で見られるように遠称の *kia* 系で指し示すこともあれば、以下の(21)~(25)で見られるように中称の *đây(đó)* 系で指し示すこともある。実際には、*đây(đó)* 系のほうがよく使用される。

・ *đây(đó)* と共有知識のア (その 1)

- (21) (フォン・タオさんはお父さんの同僚であるバオさんと病院で起こった自殺事件について話している。)

Phuong Thảo: ... thiếu gì nơi tự tử mà cô ta lại đến ngay cơ quan bố mình tự tử.
欠く 何 所 自殺 [連詞] 彼女 また 来る [強意] 機関 父 自分 自殺
Bảo: Bác đoán là cô ta định lên cầu Chương Dương nhưng ở { *đây / đây(đó) / *kia }
叔父さん 思う [繫詞] 彼女 つもり 上がる 橋 [地名] しかし [介詞] ここ / そこ / あそこ
 cấm người đi bộ.
歩行禁止

フォン・タオさん: 自殺できる所がいっぱいあるのにどうして彼女はお父さんの病院でしたのかな...

バオさん: 彼女はチュオン・ズオン橋に行くつもりだったと思うがあそこは歩行禁止だからね。(p.176)

- (22) **Ông Kiệm:** Chết! Bạch Thầy! Pho tượng Phật Thích Ca chỉ thiên chỉ địa đâu rồi?

死ぬ [呼び掛け] 先生 [類別詞] 像 仏 釈迦 指 天 指 地 どこ [完了]
Sư Huệ: À... bõ vừa đi thì có lão ăn trộm mò đến, ta cho
[間投詞] 老いた下男 ばかり 行く [連詞] いる 老人 泥棒 やってくる わし やる
 lão pho tượng { *này / đây(đó) / *kia } rồi.
老人 [類別詞] 像 この / その / あの [完了]

キエムさん: あれ! 和尚さん! 指天指地釈迦の仏像はどこに行ってしまったのですか?

フエ僧侶: あっ、あなたが出ていって間もなく泥棒がやってきて、その老人にあの仏像をあげたのじゃ。(p.25)

- (23) (小さいオアンさんをフーさんという男性に会わせるために、トウイ・チャンさんが説得しに来たが、小さいオアンさんは自分には彼氏のジョンさんがいるので会わないと言って断った。)

Oanh Bé: Tôi phải đi với John!...Tôi đang có cả một kế hoạch
私 ~なければならぬ 行く [介詞] [人名] 私 [現在進行] ある [強意] 1 計画
 chi tiết lâu dài với John. Minh ơi, mình hiểu tí không?
詳細な 長期的な [介詞] [人名] あなた [呼び掛け] あなた 分かる 私 [疑問]
Thủy Trần: Thôi được rồi, tớ hiểu...Nhưng tớ nghe nói bà Thục Oanh chị dâu
[間投詞] 良い [完了] 私 分かる しかし 私 ~そうだ 婆 [人名] お義姉さん
 của mình mới ở Đông Âu trở về, mình cũng sẽ không gặp ư?
[介詞] あなた ~ばかり から 東欧 帰る あなた も [未来] [否定] 会う [疑問]
Oanh Bé: Cái bà Oanh Nhớn { *này / đây(đó) / *kia } à?...
[類別詞] 婆 [人名] 大きい この / その / あの [疑問]

小さいオアンさん: あたしはジョンと行かなければならないの! ジョンとは長期的で詳細な計画があるの。あんた、分かってくれる?

トウイ・チャンさん: はいはい、分かったわ。しかしお義姉さんのトゥック・オアンさ

んが東欧から帰ってきたばかりだと聞いたけど、お義姉さんにも会わないの?

小さいオアンさん: あの大きいオアンの婆? (p.269)

以上の(21)~(23)では、指示対象である *câu Chương Dương* (チュオン・ズオン橋)、*pho tượng Phật Thích Ca* (釈迦の仏像)、*Thục Oanh* (トゥック・オアンさん)、それらが前の文脈に登場しているものである。よって、(18)~(20)と同じように既に言及されたものなら、ベトナム語では眼前指示においても、非眼前指示においても、中称の指示詞で指し示すと考えられる。だが、以下の(24)と(25)では先行する発話がなく、話し手がいきなり聞き手に聞き出すような場合でも *đáy(đó)* 系を用いるのが普通である。一方、日本語では遠称のア系が使われ、ベトナム語とは異なることが分かる⁴。

・ *đáy(đó)* と共有知識のア (その2)

(24) *Chuyện {đó / ?kia} thế nào rồi?*
話 その / あの どのよう [完了]

あの話、どうなった?

(安達 2009:7)

(25) *Chị đã nói “chuyện {áy / ?kia}” chưa? Đừng nên giấu!*
お姉さん [過去] 話す 話 その / あの まだ [禁止] 隠す

あのことは話したか? 隠さないほうがいいよ。

ちなみに、安達 (2009:7) では、(24)について中称の *đáy(đó)* も遠称の *kia* のどちらも用いられるとされ、「*đó* は話し手の記憶の中にある対象を指示できる。(中略) *kia* が用いられるのは、話し手と聞き手の二人だけの秘密、あるいは少数のグループのみが知っている秘密について、聞き手以外の第三者には明示せずに指示する場合である」と説明している。しかしながら(25)で見られるように、二人だけの秘密である *chuyện*(こと)であっても *kia* で指示することができない。ここでは *đáy(đó)* しか用いられないだろう。

以上見たように、ベトナム語・日本語における指示詞の相違点は主に次の二点であると考えられる。

(26) 眼前指示では、指示対象が話し手から遠くに離れている場合、日本語では遠称のア系が用いられるが、ベトナム語では既に文脈に登場しているものであれば中称の *đáy(đó)* 系が用いられる。

(27) 非眼前指示では、指示対象が話し手と聞き手の共有知識にある場合、日本語ではア系が用いられる。一方、ベトナム語では遠称の *kia* も用いられるが中称の *đáy(đó)* のほうがよく見られる。

⁴ 今回の考察では適当な用例が見つけれなかったため、安達 (2009) で使用されるものを(24)として挙げることにした。なお、(24)には筆者の判断を加えている。(25)は筆者の作例である。

3.2 *đây-đấy(đó)-kia* と韓国語の이・그・저(i-ku-ce)

3.2.1 両言語の指示詞における共通点

韓国語には이・그・저(i-ku-ce)の三系列の指示詞が存在している。眼前指示では、距離区分によって이(i-近称)、그(ku-中称)、저(ce-遠称)の指示詞が使い分けられるが、非眼前指示では主に그(ku-中称)が使用される。韓国語の이・그・저(i-ku-ce)はそれぞれがベトナム語の*đây-đấy(đó)-kia*に対応しているといわれているが、共通点も相違点もある。

眼前指示では、韓国語もベトナム語及び日本語と同様に、話し手から近くにあるものを指す場合は이(i系(*đây*系、コ系に当たる)が用いられ、遠くにあるものを指す場合は저(ce系(*kia*系、ア系に当たる)で指し示す。一方、聞き手に近い、あるいは聞き手に属しているものを指す場合は그(ku系(*đấy(đó)*系、ソ系に当たる)が用いられる。なお、(4)~(9)の*đây-đấy(đó)-kia*は全てが韓国語に対応しており、代表として(4)、(6)、(9)を以下に(4')、(6')、(9')として再掲する⁵。

・眼前指示の *đây* と 이(i)

(4') (ルオンさんが蓮の花を持って入ってきた。)

Sư Huệ: ...Ồ... Hoa sen đẹp quá!
[間投詞] 花 蓮 美しい ~すぎる

Ông Lương: Bạch thầy! Con hái bông sen {*này* /**ấy(đó)* /**kia*} ngoài đầm...
[呼び掛け] 先生 子供 摘む [類別詞] 蓮 この / その / あの 外 沼地

フエ僧侶: おや! きれいな蓮の花じゃな...

ルオンさん: 和尚さん! 外の沼地でこの蓮の花を摘んできました。 (p.52)

Hue 스님: 아! 예쁜 연꽃이구나...

Luong 씨: 스님! 바깥의 연못에서 이 연꽃을 따 왔습니다.

・眼前指示の *kia* と 저(ce)

(6') (泥棒が向こうの壁を指してフエ僧侶に言う。)

Tên trộm: Im ngay! ...Đi lại đằng {*này* /**ấy(đó)* /**kia*}... Đi sát tường...
黙る すぐ 行く 来る 方 この / その / あの 行く 添う 壁

Sư Huệ: Được rồi... Không ai làm hại người đâu. Ở đây không có ai cả.
良い [完了] ない 誰 する 害 汝 [語気詞] [介詞] ここ ない ある 誰 [強意]

泥棒: 黙れ! あっち行け! 壁に沿って歩け!

フエ僧侶: よしよし... 誰もあなたを害さぬよ。ここには誰もおらぬ。 (p.13)

도둑: 닥쳐! 저리 가! 벽쪽으로 붙어서 따라 걸어!

Hue 스님: 좋아 좋아... 아무도 당신을 해치지 않아. 여기에는 아무도 없어.

⁵ 本稿の韓国語訳は、韓国語母語話者4名(20代~30代の女性)のご協力による。

・眼前指示の *đây(đó)* と *ku(ku)*

(9') *Tên trộm (cảm pho tượng): ... Pho tượng này mà quý à?*
[類別詞] 像 この [連詞] 貴重 [疑問]
Sư Huệ: Người mà bán pho tượng {**này / ấy(đó) / *kia*} cho hàng đồ cổ
汝 [強意] 売る [類別詞] 像 この / その / あの [介詞] 店 骨董品
 có thể được 5 triệu đồng mà không phải tội...
[可能] できる 5 兆 ドン [連詞] [否定] 処罰

泥棒 (仏像を持って): この仏像は高価なものなのか?

フエ僧侶: その仏像を骨董品屋さんに売れば仏様に罰せられることなく 5 百万ドンも
 らえるのじゃ。 (p.14-5)

도둑: 이 불상은 비싼 것인가?

Hue 스님: 그 불상을 골동품 가게 에 팔면 부처님에게 벌 받는 일 없이 5 백만동
 받을 수 있을 거야.

また、「解説のコと *đây*」及び後方照応のコと *đây* は韓国語の近称の *이(i)* 系、連
 動読みの *소* と *đây(đó)* は韓国語の中称の *ku(ku)* 系にも見られるので、日本語・ベ
 トナム語と同じであると言える。なお、(10)~(15)の *đây* と *đây(đó)* は全てが韓国
 語に対応しており、代表として(12)と(13)を以下に(12'), (13')として再掲する。

・解説の *đây* と *이(i)*、連動読みの *đây(đó)* と *ku(ku)*

(12') *Bảo:* Hon nữa, {*đây / *đây(đó) / *kia*} mới là điều quan trọng nhất, tôi không quen tiêu tiền lẻ.
しかも これ / それ / あれこそ [繫詞] こと 大事 一番 私 [否定] 慣れる 使う 小銭

バオさん: しかも、これこそが一番大切です。小銭を使い慣れていないのです。 (p.169)

Bao 씨: 게다가, 이거야말로 가장 중요합니다. 동전을 사용하는 것이 익숙치
 않다는 겁니다.

(13') *Bảo:* Ông ta là một bác sĩ chuyên môn cừ, bằng chứng là bệnh nhân nào được ông ta
彼 [繫詞] 1 医者 専門 上手 証拠 [繫詞] 患者 どの [受身] 彼
 khám bệnh đến lần thứ ba là bệnh nhân {**này / ấy(đó) / *kia*} chết...
診療する まで 回 目 3 [繫詞] 患者 この / その / あの 死ぬ

バオさん (スアン・ランさんに言う): 彼は腕がいい先生ですな。どの患者さんも彼に病
 気を見てもらおうとその患者さんは3回目には必ず死ぬので... (p.169)

Bao 씨: 그는 실력이 좋은 선생님이구나. 어떤 환자라도 그에게 진찰을 받으면 그
 환자는 3 번째에는 반드시 죽기 때문에...

さらに、韓国語の指示詞について梅田 (1982) では「対話を含め、同一の談話
 内において一度言及されたもの、話し手の記憶の中にあるもの、話し手と聞き
 手の暗黙の共通の了解事項を指示する場合にはすべて *ku* が用いられる
 (p.182-3)」と述べており、以下の(19'), (24'), (25')で見られるように、ベトナム
 語指示詞の中称の *đây(đó)* 系にも同様の用法があると言える。なお、これらの
 例では日本語の場合はベトナム語・韓国語と異なり、遠称のア系が用いられる。

・一度言及されたものを指す *đấy(đó)* と *그(ku)*

(19') (遠くにある魔法瓶を指して)

Bảo: ...chị có nhìn thấy cái phích hai lít rưỡi *kia* không?
お姉さん [強意] 見える [類別詞] 魔法瓶 2 リットル 半 *あの* [疑問]

Xuan Lan: Anh bảo sao?
お兄さん 言う どのよう

Bảo: Chị hãy hình dung ở {**đấy/đấy(đó)/*kia*} chứa đầy máu.
お姉さん [命令] 想像する [介詞] ここ / そこ / あそこ 詰める いっぱい 血

バオさん: あそこにある容量が2リットル半の魔法瓶が見えますか?

スアン・ランさん: どういうことですか?

バオさん: あの魔法瓶/そこに血がいっぱい入っていることを想像してください!
(p.193)

Bao 씨: 저기에 있는 용량 2.5 리터짜리 보온병 보입니까?

Xuan Lan 씨: 무슨 말씀이세요?

Bao 씨: 거기/저기에 피가 가득 들어있다고 상상해 보십시오.

・非眼前指示の *đấy(đó)* と *그(ku)*

(24') Chuyện {*đó/?kia*} thế nào rồi?
話 その/あの どのよう [完了]

あの話、どうなった?

그 이야기, 어떻게 되었어?

(安達 2009:7)

(25') Chị đã nói “chuyện {*ấy/?kia*}” chưa? Đừng nên giấu!
お姉さん [過去] 話す 話 その/あの まだ [禁止] 隠す

あのことは話したか? 隠さないほうがいいよ。

그 일은 말했어? 감추지 않는 게 좋아.

3.2.2 両言語の指示詞における相違点

両言語の指示詞の相違点は(16')と(17')で示されるように、非眼前指示では韓国語は中称の *그(ku)* 系が用いられるが、ベトナム語では遠称の *kia* が用いられる。なお、(16')と(17')での指示対象である「謎の女性」と「男児」は話し手も聞き手も知っている人物である。一方、ベトナム語と同様に、日本語では遠称の *ア* 系が使われる。

・ *kia* と非眼前指示の *그(ku)*

(16') (グエン・タイ・ホックという歴史人物についての事件捜査中に謎の女性の名前が出てきて、少将は部下の中尉にその女性の真相を調べるように命令する。)

Thiếu tướng: Anh chỉ còn một cách thôi, anh hiểu không? Anh phải
お兄さん だけ 残る 1 方 [限定] お兄さん 分かる [疑問] お兄さん ~なければならない
đựng lại toàn bộ câu chuyện này, câu chuyện về Nguyễn Thái Học và
再現する 全部 ストーリー この ストーリー について [人名] と
người phụ nữ vô danh {**này/?ấy/kia*}.
[類別詞] 女性 無名 この/その/あの

少将: 分かったか? 君には道が一つしかない。このストーリー、つまりグエン・タイ・ホックとあの謎の女性のすべてを再現しなければならないのだ。(p.94)

소장: 알았어? 네게 는 길이 하나 밖에 없어. 이 이야기, 즉 Nguyen Thai Hoc 와 그 수수께끼의 여자의 모든 것을 재현 하지 않으면 안되는거야.

- (17') (ベン市場の辺りに子供が生まれた家があるかどうか尋ねに行ってきたキエムさんとしばらくベン市場の辺りの様子について話して、フエ僧侶がキエムさんに聞く。)

Sư Huệ: ...thế bõ có hỏi về cái nhà mới sinh đứa bé trai
[接続] 老いた下男 [疑問] 聞く 関する [類別詞] 家 ばかり 生む [類別詞] 幼児 男
 { *này / ?ấy(đó) / kia } không?
この / その / あの [疑問]

フエ僧侶: そういえば、あの男児が生まれたばかりの家について聞いたのか? (p.24)

Hue 스님: 그리고 보니, 막 태어난 그 남자아기 의 집에 대해서 물었니?

ここで、前述の(24')と(25')も合わせて見ると、ベトナム語・韓国語における指示詞の相違点は次のようであると考えられる。

- (28) 指示対象が話し手の記憶にあるもの、または話し手と聞き手の共有知識にある場合、韓国語では中称の ku 系が用いられるが、ベトナム語では中称の đấy(đó) 系も遠称の kia 系も見られる。

3.3 日本語・韓国語との対照から見たベトナム語指示詞

これまで述べてきたことを踏まえて、Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みによって一般化された日本語の指示詞を再確認しながら、さらに韓国語の指示詞にも応用し、そこに反映されるベトナム語指示詞について考える。

Hoji et al. (2003) では、日本語の指示詞について、コとアは眼前指示においても非眼前指示においても、「近・遠」という距離区分があり、独立した対象を持ち、言語的先行詞を必要とせず ([+D]と呼ばれる)、直接経験要素を直接指示する。コは[+Proximal] (「近」と見なされる要素)、アは[-Proximal] (「遠」と見なされる要素) と結び付くとされる。[+/-Proximal]は言語形式上の特性であり、「近・遠」は認知上の特性であるが、「近」か「遠」かは認知主体である話し手によってある程度主観的に決められる。つまり、話し手にとって物理的に同じ位置にあったとしても、ある場合には「近」という特性を付けて、[+Proximal]という言語特性を持つコ系の指示詞を使うこともできるし、「遠」という特性を付けて、[-Proximal]という言語特性を持つア系の指示詞を使うこともできる。一方、非眼前指示のソは「近・遠」という距離区分がなく、独立した指示対象を持たず、必ず言語的先行詞を必要とする ([-D]と呼ばれる) と述べている。しかし、

眼前指示のソには明らかに言語的先行詞は存在しない。そこで、田窪 (2010) では「ソは、それが指示する対象に対し、**近・遠**という認知的特徴付けができない場合、すなわちア[-Proximal]でもコ[+Proximal]でも表せない対象を表すときに使われる (p.311)」とされ、したがって眼前指示のソは[+D]の要素を取ることができず、最後の手段として[-D]の要素を用いることになると説明している⁶。Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の主張をまとめると以下のようになる⁷。

(29)

[+D]	コ: 近 ア: 遠
[-D]	ソ

一方、梅田 (1982) では、韓国語の指示詞を「具体的指示」と「文脈指示」に分けて、「話し手が、自分の領域にあると認めたものを具体的に指示するときには **i**、聞き手の領域にあると認めたものを具体的に指示するときには **ku**、自分の領域および聞き手の領域のいずれからもはずれていると認めたものを具体的に指示するときには **ce** が、それぞれ用いられる。そして、対話を含め、同一の談話内において一度言及されたもの、話し手の記憶の中にあるもの、話し手と聞き手の暗黙の共通の了解事項を指示する場合にはすべて **ku** が用いられる (p.182-3)」と述べている。さらに、日本語の指示詞との相違点に関しては、具体的指示のコ(**ku**)は日本語のソが指し示す範囲よりも限定されており、明らかに聞き手の領域にあると認められる場合のみ使用される。저(**ce**)は日本語のアよりは指し示す範囲が広く、日本語ではアで指示するには近すぎる場合にも韓国語では저(**ce**)が使われる。文脈指示では、이(**i**)も저(**ce**)も現れず、コ(**ku**)のみが用いられるのも日本語の指示詞との相違点であるとされている。

金水他 (2002) では、韓国語の指示詞を以下のように分類している。

- (30) **i**: 今、眼前にある、話し手に近い対象、および文脈に導入された対象を指す。
ku: 今、眼前にある、聞き手に近い対象、および今眼前にはないが、話し手が直接的に知っている対象、文脈に言語的に導入された対象を指す。
ce: 今、眼前およびそれに準ずる空間で、話し手から遠い対象を指す。
 (金水他 2002:238)

韓国語では、基本的に「今、直接知覚できない対象」をコ(**ku**)で指示するが、以下のような注意が必要な場合があると述べている。

⁶ この議論が成り立つために、指示対象が話し手から遠く聞き手から近い場合（つまり眼前指示のソが使われる場合）、「近・遠」という特徴付けができないと示さなければならないが、その方法については田窪 (2010) を見られたい。

⁷ 田窪行則教授のご教示による。

- (31) (大きめのホールで立食パーティが行われており、大勢の人間とともに A、B、C の三人がいるとする。A は B を知っているが、C とは初対面である。A は、B が C と話しているのを目撃したが、その場を離れ、10 分後に同じホールで再び B を見かけたとする。C が見あたらないので、A が B に次のように聞く。)

A : akka {**ku**/***ce**} salam, eti ka-ss-ni?
 さっきの {***その/あの**} 人 どこへ行った

(金水他 2002:236)

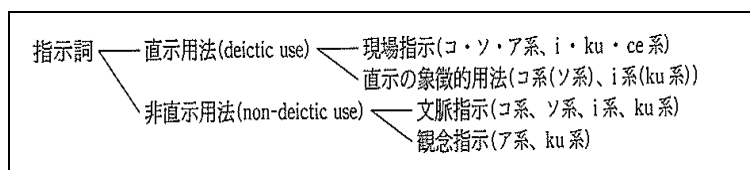
- (32) (普通の大きさの部屋に A、B、C の三人がいるとする。A は B と親しいが、C とは初対面である。A は、B が C と何か話しているのを傍観していたが、しばらくして C は部屋から出ていった。C が出た直後に A が B に聞いたとする。)

A : {***ku/ce**} salam, nwukwu-ni?
 {***その/あの**}人 誰

(金水他 2002:236)

(31)で見られるように、その場にい不在、直接知覚できない対象はコ(**ku**)では指せるが저(**ce**)では指せない。しかし、(32)のような저(**ce**)が用いられる場合もある。ただし、この저(**ce**)の用法は指示対象が現場から出た直後であり、未だに話し手と聞き手と同一空間を共有しているという直観が働く場合に限られるという。

さらに、金 (2006) では、韓国語と日本語の指示詞の系列を以下のように分類し、一連の会話での両言語における指示詞の用法を比較分析した。



(表 4) 金 (2006) による日本語と韓国語の指示詞用法の分類

その結果、韓国語・日本語の指示詞における相違点については、現場指示では「日本語のソ系の方が韓国語の **ku** 系に比べ、より話し手から離れた地点まで指しでき、韓国語の **ku** 系は話し手を中心にピンポイント的に狭い範囲内の地点しか示せない (p.61)」とされている。一方、観念指示⁸では日本語はア系が使われ、韓国語はコ(**ku**)系が使用される。なお、韓国語では観念指示としての저(**ce**)系も見られるが、指示対象が歴史上有名な人物や文化遺産に関する百科事典的

⁸ 金 (2006) で使用される観念指示は「話し手と聞き手の共有知識領域の中に存在する事件や知識・世界や歴史的事実に関する百科事典的知識・自分が過去に体験したエピソード記憶等が文の指示対象になる場合、それを指示する指示詞の用法のことをいう (p.95)」とされている。

知識である場合、あるいは観念指示ではなく現場指示の延長としての저(ce)系⁹である場合に限られると述べている。

要するに、韓国語・日本語の指示詞の相違点は主に次の二点である。

(33) 現場指示では、指示対象との距離への認知が多少違うところがある。(ただし、이・코・저(i-ku-ce)と코・소・아はそれぞれ近・中・遠であるという点では対応している。)

(34) 観念指示では、日本語ではア系、韓国語ではコ(ku)系(ソ系に当たる)が使われる。

(33)は距離のとらえ方という言語外的要因から来ると考えられる。(34)こそが日・韓の指示詞におけるもっとも大きな違いである。そこで、前述の(29)で示される Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みを応用し、韓国語の指示詞を一般化させると次の(35)のようになる。なお、現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる対象を指示するならば[+現場]、視覚的に確認できるかどうかに関わらず現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指示するならば[-現場]という特徴を持つことになる。以上のことからすると、韓国語の指示詞では、이(i)と저(ce)系は[+現場]であり、코(ku)は[-現場]であると考えられる¹⁰。

(35)

[+現場]	i: 近 ce: 遠
[-現場]	ku

ただし、(35)が成り立つためには、眼前指示のコ(ku)が[-現場]の要素を最終の手段として用いると示さなければならないが、田窪 (2010) での日本語のいわゆる直示のソに対する説明方法を応用すれば良いであろう。

次に、ベトナム語・日本語またはベトナム語・韓国語の指示詞における共通点・相違点に基づいて、日本語・韓国語の指示詞のそれぞれの特徴付けをベトナム語指示詞に応用してみよう。3.1.2 では、(26)と(27)はベトナム語・日本語の指示詞の相違点であると述べたが Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みで考えると、(26)で示される *đây(đó)*は[-D]という特徴付けを持つことになる。そうすると、日本語のソの特徴付けとは変わらないのである。異なるのは日本語で

⁹ 金 (2006) で言う現場指示の延長としての저(ce)は、前述の(32)で見られる저(ce)の用法に当たる。

¹⁰ 田窪行則教授よりご助言いただいた。

は金水・田窪 (1992) の指示トリガー・ハイラーキーによる¹¹と、現場指示が常に優先されているのに対し、ベトナム語では必ずしもそうではないと考えられる。よって、ベトナム語・日本語の指示詞の主な相違点は(27)である。一方、ベトナム語・韓国語の指示詞に関しては(28)のような違いが挙げられる。そこで、(29)と(35)での特徴付けをベトナム語指示詞に当てはめてみると、以下のようになる。

(36) 日本語との対照から見たベトナム語の指示詞

[+D]	<i>dây</i> : 近 <i>kia</i> : 遠
[-D]	<i>đây(đó)</i>

ただし、非眼前指示の[+D]の *đây(đó)* も見られる。

(37) 韓国語との対照から見たベトナム語の指示詞

[+現場]	<i>dây</i> : 近 <i>kia</i> : 遠
[-現場]	<i>đây(đó)</i>

ただし、非眼前指示の[-現場]の *kia* も見られる。

このように、先行詞が必要とするという[-D]の特徴を持つ日本語のソ系と異なり、ベトナム語の *đây(đó)* 系は[-D]の特徴を持つ時もあり、[+D]の時もある。他方、韓国語では[-現場]の特徴を持つのはコ(*ku*)系しかないが、ベトナム語では *kia* 系にもその特徴が見られる。つまり、ベトナム語の指示詞を(36)のように特徴付けるなら、[+D]の *đây(đó)* を例外として扱うことになり、さらにその用法を説明する必要がある。しかしながら、Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) における[±D]は日本語の指示詞の統語論的特徴付けであり、相互的な対立にあるため、例外を認めがたいだろう。すなわち、[+D]の *đây(đó)* と[-D]の *đây(đó)* が同時に存在しているという問題に対して、説明を与えるのが非常に困難である。しかも、この[±D]を使用するには、日本語との対照を統語論的に考慮しなければならない。その一方、(37)のように特徴付けるなら、問題となるのは[-現場]の *kia* である。だが、[±現場]は意味論・語用論的特徴付けであり、[-現場]の *kia* は[-現場]の *đây(đó)* とは何らかの語用論的な区別があると想定できる。そこで、ベトナム語の指示詞の特徴付けを次のように考える。

(38) ベトナム語の指示詞の特徴付け：

近	[+現場]	<i>dây</i>
遠	[+現場]	<i>kia</i>
	[-現場]	<i>kia</i>
近・遠がない	[-現場]	<i>đây(đó)</i>

¹¹ 金水・田窪 (1992) は、「日本語では、同一の要素が現場、経験スペース、その他のスペースなどにまたがって存在し、それらがコネクターでつながれているとき、どの要素を指示トリガーとするか、という選択に関して、一定のハイラーキーを有している (p.143)」と主張している。そして、日本語の指示トリガー・ハイラーキーは「現場>経験スペース>>その他」であり、すなわち指示トリガーとしてより現場に近い要素を選ぶ傾向があるとされている。

つまり、ベトナム語では、[+現場]の特徴を持つのは *dây* 系と *kia* 系である。*dây* と *kia* は「近・遠」で対立している。一方、*đây(đó)*には距離区分がない。[-現場]の特徴を持つのは *kia* 系と *đây(đó)*系であり、*kia* は「遠」である対象を指すため、*đây(đó)*と区別されているとなる。第4節では、(38)に基づいて *dây* 系、*kia* 系、*đây(đó)*系のそれぞれの用法を詳しく解釈していく。

4. ベトナム語指示詞の解釈へ

4.1 *dây* 系

dây は現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「近」であると認知される対象を指示する。この「近」は話し手の主観によって決められる。物理的に離れている対象でも、それは話し手にとって近いと心理的に感じられるものなら、近称の *dây* を使うことができる。ただし、話し手の手が届かなず聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）対象は、話し手にとって「近」であると判断できなくなる。一方、指示対象が可視的ではない時は、視覚では確認できないものの、頭の中で想像することができる。現場にないものを指す *dây* も、話し手の想像によって対象がまるで目に見えるように再現されるので、現場指示の *dây* と同様に、[+現場]の特徴を維持していると考えられる。(10)~(12)での解説の *dây* と後方照応の *dây* は、指す対象が直前または直後に言及されているため、すぐに再現できるし、近いと感じられやすい。したがって、*dây* 系が用いられる。なお、「近・遠」と[±現場]は語用論的性質で独立しているが、「近」は[+現場]しか取れないと言える。つまり、*dây* は現場指示でしか用いられないのである。

4.2 *kia* 系

[+現場]の *kia* は現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「遠」であると認知される対象を指示する。*dây* と同様に、この「遠」は話し手の主観によって決められ、必ずしも物理的な距離に基づくものではない。ただし、聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）対象は話し手から「遠」であると判断できないため、*kia* が用いられない。さらに、以下の(39)のように指示対象は現場からいなくなった場合でも、発話がその直後に行われるため、対象がまだ現場に存在しているという話し手の直観が働いて、[+現場]の *dây* か *kia* が使われることもある。なお、話し手にとってその対象が「近」なら *dây*、「遠」なら *kia*¹²を用いる。

¹² この *kia* の用法は韓国語における現場指示の延長としての저(ce)と同じである。

(39) (スアン・ランさんがバオさんに知り合いのモーさんを紹介して、しばらく3人で話してから、モーさんが出ていった。)

Bảo: Hoàn cảnh của cô Mơ {*này/?ấy / kia*} có khác nào hoàn cảnh của
状況 [介詞] ~さん [人名] この/その/あの [強意] 違う [反語] 状況 [介詞]
 Vương Thúy Kiều... Hậu duệ của Vương Thúy Kiều là cô Mơ {*này/?ấy / kia*}
[人名] 後裔 [介詞] [人名] [繫詞] ~さん [人名] この/その/あの
 cũng đã hành động hệt như tổ phụ của mình...
も [過去] 行動する そっくり 祖父 [介詞] 自分

バオさん: あのモーさんの今の状況はヴォン・トゥイ・キエウとまったく一緒ですね。ヴォン・トゥイ・キエウの後裔であるあのモーさんもまた自分の師匠とそっくりな行動をとりました。(p.172)

[一現場]の *kia* は現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある、かつ話し手から「遠」であるものを指し示す。この「遠」は、非現場指示では話し手の対象への疎遠感を表す。つまり、よく知らないあるいは理解できない対象に対して、話し手はその対象を「遠」だと判断するわけである。[一現場]の疎遠感は[+現場]の「遠」から拡張したものであると考えられる。(16)と(17)で見られる *kia* はこれに当たるだろう。

4.3 *đầy(đó)* 系

đầy(đó) は、現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指し、典型的な非現場指示用法を持つと言える。発話の現場には存在しなければどんな対象でも *đầy(đó)* で指すことができる。(10)、(21)~(25)はこの[一現場]の *đầy(đó)* に当たる。また、*đầy(đó)* には距離区分がない。言い換えれば、「近」か「遠」か (あるいは対象に対する親近感が働くか疎遠感が働くか) 特定できない時に *đầy(đó)* が用いられる。「近・遠」が特定できないのは次の二つである。

- ・ 指示対象が三つあって、中距離にあるものを指す場合。
- ・ 聞き手に近い (あるいは聞き手に属する) 対象を指す場合。

先行研究では、話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いているとき、指示対象が三つ存在している場合ならその中間にあるものを *đầy(đó)* で指すこともできると言及している。しかしながら、対象が三つの中のどれかがなくなった時は *đầy(đó)* が使えなくなる。(40)を見られたい。

- (40) a. {話し手・聞き手} _____ (2m) _____ {本①} _____ (2m) _____ {本②} _____ (2m) _____ {本③}
{quyển sách *này*} {quyển sách *đầy(đó)*} {quyển sách *kia*}
{この本} {その本} {あの本}
- b. {話し手・聞き手} _____ (4m) _____ {本②} _____ (2m) _____ {本③}
{quyển sách *kia*} {quyển sách *kia*}
{あの本} {あの本}
- c. {話し手・聞き手} _____ (2m) _____ {本①} _____ (2m) _____ {本②}
{quyển sách *này*} {quyển sách *kia*}
{この本} {あの本}
- d. {話し手・聞き手} _____ (2m) _____ {本①} _____ (4m) _____ {本③}
{quyển sách *này*} {quyển sách *kia*}
{この本} {あの本}

ただし、指示対象が二つある場合、「近」か「遠」かは話し手による。すなわち、(40a)のように、話し手から本①が近くて、本③が遠ければ、真ん中にある本②は近いか遠いかを判断できなくなる。そこで、「近・遠」の特定できない *đây(đó)* が選ばれるわけである。もう一つは、指示対象が聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）場合である。聞き手が話し手の近くにいるなら（つまり対象も話し手に近い）、*đây* を使うことができる。そうでない場合は、話し手は対象との距離を特定する際に、聞き手が大きな妨害となるだろう。なぜならば、話し手は認知主体として自分と指示対象との距離を測るが、その際、認知空間にあるのは話し手と対象のみであり、対象が自分から近いか遠いかという二つの選択肢しかない。だが、対象が聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）ものだと、話し手は聞き手が認知空間に存在していることを無視できない。そのため、指示対象との距離を測りづらくなる。そこで、最終的手段として「近・遠」の特定できない *đây(đó)* が用いられるのである¹³。

ちなみに、(18)~(20)のような一度言及されたものを指す *đây(đó)* も[一現場]であるとと言える。以下に代表として(19)を再掲しよう。

(19) (遠くにある魔法瓶を指しながら)

Bảo: ...chị có nhìn thấy cái phích hai lít rưỡi *kia* không?
お姉さん [強意] 見える [類別詞] 魔法瓶 2 リットル 半 あの [疑問]

Xuân Lan: Anh bảo sao?
お兄さん 言う どのよう

Bảo: Chị hãy hình dung ở {**đây /đây(đó)/*kia*} chứa đầy máu.
お姉さん [命令] 想像する [介詞] ここ/ そこ / あそこ 詰める いっぱい 血

バオさん: あそこにある容量が2リットル半の魔法瓶が見えますか?

スアン・ランさん: どういうことですか?

バオさん: あの魔法瓶/そこに血がいっぱい入っていることを想像してください!
(p.193)

(19)では、話し手から遠くに離れた「魔法瓶」は最初の発話では *kia* が用いられる。しかし、次の発話では *đây(đó)* が用いられ、*kia* が不適切になる。この *đây(đó)* は[一現場]の *đây(đó)* であると考えられる。一度言及されたものは旧情報として認知されており、記憶の中にある事物と同じように思われるからである。実際にも、最初の発話では話し手は対象を見ながら（あるいは手で指しながら）言うのが普通であるのに対し、その次の発話では対象を見ないで言うことが多い。

¹³ Hoji et al. (2003)、田窪 (2010) では、眼前指示のソについて同様なことを主張している。詳しくは Hoji et al. (2003)、田窪 (2010) を見られたい。

4.4 *đây* と *kia*

[+現場]の *đây* と *kia* はどちらも、現場に存在しているものを指すが、「近・遠」で対立している。安達 (2008, 2009) にも言及されている「*kia* は *đây* と対になって、「もう一方」という意味」はその特徴から派生すると考えられる。たとえば、*cái này–cái kia* (これ・あれ)、*đang này–đang kia* (こちら・あちら)、*bên này–bên kia* (こちら側・あちら側)、*thế này–thế kia* (こういう・ああいう) などがある。ちなみに、前述の(24)、(25)では、*đầy(đó)*は使えるが *kia* は適切ではないと述べたが、*kia* が用いられるのは次の(41)のような場合である。

- (41) A: Em đã nói với bố mẹ em chuyện chúng ta sẽ kết hôn.
私 [過去] 言う [介詞] 親 私 こと 私たち [未来] 結婚
Anh đã nói với bố mẹ chưa?
あなた [過去] 言う [介詞] 親 まだ
- B: Anh nói rồi. Bố mẹ mừng lắm.
私 言う [完了] 親 喜ぶ とても
- A: À, còn chuyện {**này* / **ây* / *kia*} thì sao? Anh cũng nói rồi chứ?
[間投詞] ところで こと この / その / あの [連詞] どう あなた も 言う [完了] [疑問]
- B: Chuyện chúng ta sẽ không sinh con ngay á? Anh chưa nói.
こと 私たち [未来] [否定] 生む 子供 すぐ [疑問] 私 まだ 言う
- A: 結婚のこと親に言ったわ。ご両親に話した?
B: 言った。喜んでたよ。
A: そうだ、**あの**話もした?
B: すぐには子供を生まないつもりって話? まだ言ってない。

(41)で示されるように、*kia* 系の指示詞しか使えない。すなわち、一連の対話で今の話題からそれに関連している別の話題に切り替えた時、その新話題の指示対象が話し手と聞き手の共有知識にあるものなら、*kia* が使用される。この *kia* も *đây* と対になって、「もう一方」という意味を表していると考えられる。なぜなら、「今の話題」と「関連している別の話題」も「この話題・あの話題」のような対立を持っているからである。

4.5 *đầy(đó)* と *kia*

[−現場]の *đầy(đó)* と *kia* は、どちらも現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指示するが、*kia* は現場指示における特徴付けを維持している。*kia* は、現場指示では「遠」だと認知されるものを指すため、非現場指示においても「遠」である対象を指す。4.2 で既に述べたように、非現場指示では物理的に判断できる「遠」ではなく、話し手の対象への疎遠感のことを表す。よく知らない、あるいはまったく理解できない対象に対して、話し手と対象の間に疎遠感が感じられやすい。一方、指示対象が「遠」である時以外、一般的に *đầy(đó)* が用いられる。つまり、対象との距離を考慮する必要がない時、典型的な非現場指示の *đầy(đó)* が選ばれる。

- (42) (小さいオアンさんには彼氏のジョンさんがいると聞いているにも関わらず、彼女をフーさんという男性に会わせるように説得しようとしたトウイ・チャンさん。しかし、小さいオアンさんはジョンさんと結婚してアメリカに行くと言って断った。)

Thủy Trần: Tức là mình đã có kế hoạch chắc chắn với anh chàng John người Mỹ
 つまり あなた [過去] ある 計画 確かな [介詞] 男性 [人名] 人 アメリカ
 {**này / ấy(đó) / kia*} rồi phải không?
 この / その / あの [完了] [疑問]

トウイ・チャンさん: つまり、そのアメリカ人のジョンさんと確かな計画があるということだよな? (p.268)

- (42)では、話し手は前から指示対象であるジョンさんのことを聞いているが、実際に会ったことがない。ここで、ジョンさんを良く知らないということを強調したければ *kia* を、そうでなければ *đấy(đó)* を使用することになる。

ちなみに、第2節で挙げた(2)と(3)のような現場指示の場合でも、この *đấy(đó)* と *kia* の違いが見られる。(2)と(3)は、*đấy(đó)* を用いると、ただ聞き手に属するものを指すが、*kia* を用いると、話し手が指示対象である cái áo xẻ tà (裾が開いたブラウス)、một chút son phấn trên khóe miệng (口元にみえるほんの少しの化粧)、bộ trang phục “môden” (モダンな服装)、または nụ cười độc ác (意地悪な微笑) がとても理解できないと批判しているニュアンスが出てくる。つまり、指示対象との間に疎遠感が感じられ、話し手は対象を「遠」であると判断し、遠称の *kia* で指しているのである。

さらに、以下の(43)と(44)を見られたい。

- (43) (5メートルぐらい離れたところから、姉が自分の部屋を覗いているのを見てびっくりする。)

Chị Hanako! Chị đang làm gì ở {**đây / đấy(đó) / *kia*} hả?
 お姉さん [人名] お姉さん [現在進行] する 何 [介詞] ここ / そこ / あそこ [疑問]

花子姉ちゃん! そこで何してるの?

- (44) (5メートルぐらい離れたところから、知らない女の人が自分の家を覗いているのを見てびっくりする。)

Chị {**này / *ấy(đó) / kia*}! Chị đang làm gì ở {**đây / đấy(đó) / *kia*} hả?
 お姉さん この / その / あの お姉さん [現在進行] する 何 [介詞] ここ / そこ / あそこ [疑問]

そこのお姉さん! そこで何してるの?

- (43)では自分の姉を名前呼びかけるのに対し、(44)ではまったく知らない人であるため、呼びかけには、相手との距離を置きながら遠称の *kia* を使うことが多い。また、(44)は同じ距離であるものの、後続の場所に対して中称の *đấy(đó)* (そこで) で指示される。このように、現場指示においても非現場指示においても「遠」である対象を指示する時 *kia* が使用される。

5. 結論

本稿では、日本語・韓国語の指示詞との対照に基づいて、ベトナム語指示詞の用法を考察してきたが、本論文の主張をまとめる次のようとなる。

・ベトナム語指示詞は日本語・韓国語と同じく、*đây-đấy(đó)-kia* の三系列を持ち、現場指示では *đây* は話し手（認知主体）にとって「近」であるとみなされるものを、*kia* は「遠」であるとみなされるものを指す。*đấy(đó)*は聞き手に近い（あるいは聞き手に属するもの）を指す。*đây* と *kia* は「近・遠」で区別されるが、*đấy(đó)*には距離区分がない。

・非現場指示では、*đấy(đó)*は現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指す。*đấy(đó)*は、いわゆる典型的な非現場指示用法を持つ。つまり、指示対象が現場にはなければ、一般的に *đấy(đó)*を使うことができる。一方、*kia* も記憶の中にあるものを指すこともあるが、現場指示における特徴が維持されており、「遠」であると判断されるものを指示する。

【参考文献】

- 安達真弓 (2008) 「ベトナム語指示詞 *đây, đó, kia* の直示用法と照応用法—日本語指示詞との対照を基に—」『東京大学言語学論集』27, 207-216.
- (2009) 「ベトナム語指示詞の直示用法における聞き手の位置と記憶指示用法の *kia* について」『東京大学言語学論集』28, 1-11.
- 上山あゆみ (2000) 「日本語から見える「文法」の姿」『日本語学』4月臨時増刊号(vol.19) 明治書院, 169-181.
- 梅田博之 (1982) 「朝鮮語の指示詞」『講座日本語学 12』明治書店.
- 金善美 (2006) 『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直示用法』 風間書店.
- 金水敏・岡崎友子・曹美庚 (2002) 「指示詞の歴史的・対照言語学的研究 —日本語・韓国語・トルコ語—」 生越直樹(編)『シリーズ言語科学 4 対照言語学』東京大学出版会, 217-247.
- 金水敏・田窪行則 (編) (1990) 「談話管理理論から見た日本語の指示詞」『認

- 知科学の発展』講談社 [金水・田窪(編) (1992), 123-149に再録].
- 金水敏・田窪行則 (編) (1992) 『日本語研究資料集 1 指示詞』 ひつじ書房.
- 黒田成幸 (1979) 「(コ)・ソ・アについて」 『林栄一教授還暦記念論文集・英語と日本語と』 くろしお出版, 41-59.
- 申恵環 (1985) 「韓国語の指示詞 i, ku, choと日本語の指示詞コ、ソ、ア」 『Sophia linguistica』 18, 102-112.
- 田窪行則 (2008) 「日本語指示詞の意味論と統語論—研究史的概説—」 『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—語学教育フォーラム』 16 [田窪行則著 (2010), 289-316 に再録].
- 田窪行則 (2010) 『日本語の構造 推論と知識管理』 くろしお出版.
- 田村マリ子 (1978) 「指示詞—朝鮮語이・ユ・저系列と日本語コ・ソ・ア系列との対照—」 『待兼山論叢 日本語学編』 12, 3-14.
- 富田健次 (2000) 『ヴェトナム語の世界—ヴェトナム語基本文典』 大学書林.
- Hoji, Hajime, Satoshi Kinsui, Yukinori Takubo, and Ayumi Ueyama (2003) The Demonstratives in modern Japanese. Yen-hui Audrey Li and Andrew Simpson (eds.), *Functional Structure(s) Form and Interpretation: Perspectives from East Asian Languages*, 97-128.
- Emeneau, Murray B. (1951) *Studies in Vietnamese (Annamese) Grammar* University of California Press.
- Nguyễn Đình Hòa (1997) *Vietnamese – Tiếng Việt không son phần* [かざりのないベトナム語] John Benjamins Publishing Company.
- Nguyễn Hữu Quỳnh (2001) *Ngữ pháp tiếng Việt* [ベトナム語文法] Nhà xuất bản Từ điển bách khoa.
- Nguyễn Kim Thân (1996) *Cơ sở ngữ pháp tiếng Việt* [基礎ベトナム語文法] Nhà xuất bản Khoa học xã hội.
- Nguyễn Phú Phong (2002) *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt – Loại từ và chỉ thị từ* [ベトナム語文法の諸問題—類別詞と指示詞] Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Thompson, Laurence C. (1965) *A Vietnamese Grammar* University of Washington Press.

【用例採集】

- Nguyễn Huy Thiệp (2012) *Tuyển tập kịch Nguyễn Huy Thiệp* [Nguyen Huy Thiep 戯曲選集] Nhà xuất bản Trẻ.

The demonstratives *đây*, *đấy(đó)*, *kia* in Vietnamese: A contrastive analysis of Vietnamese, Japanese and Korean

NGUYEN THI HA THUY

Abstract

In this paper, I consider the similarities as well as the differences in the use of Vietnamese, Japanese and Korean demonstratives. Based on this comparative analysis, I examine the possibilities of analyzing the function of *đây-đấy(đó)-kia* using either of these two features: [±D] and [±spatial]. The results are as follows:

proximal	[+spatial]	<i>đây</i>
distal	[+spatial]	<i>kia</i>
	[-spatial]	<i>kia</i>
neither proximal nor distal	[-spatial]	<i>đấy(đó)</i>

Vietnamese demonstratives have a three-term system of *đây-đấy(đó)-kia*. In deictic uses, *đây* (proximal) indicates a referent spatially close to the speaker, while *kia* (distal) indicates a referent far from the speaker. *đấy(đó)* (neither proximal nor distal) identifies a referent close or belonging to the hearer. *đây* or *kia* are determined by proximity/distance, whereas *đấy(đó)* itself does not possess a spatial distinction.

Meanwhile, *đấy(đó)* has a typical memorative use to identify a non-present referent recalled from the speaker's memories. *kia* can also be used in memorative uses; however, as with its deictic usage, *kia* can only indicate a referent which is perceived to be psychologically distant from the speaker.

受領日 2014年8月29日
受理日 2014年12月20日